

## 第1部門A 伝統・日本

### 旧小判切手 むらかみ のぶかず 村上市 信和 (岡山県) ⑤

これまでの手彫方式では生産性が悪く急増する郵便物に対応した切手の製造方法即ち迅速に大量に製造出来る印刷技術が要求されるようになった。又この頃、外国郵便が取扱われだし、手彫の図柄では国名がわからず国際性に欠けていた。そこで当時、紙幣製造職人として紙幣寮に招かれていた伊人エドワード・キヨソネの指導で新方式の凸版切手を製造するようになった。このシリーズを小判切手と称した。四角の枠内に楕円形のベルトを中心にし、その中央に菊の紋を配した図柄であった。更に大日本帝国と IMPERIAL JAPANESE と日英両国語が入って国際的となった。これらは30種つくられ、このうちの最初の17種を旧小判切手、次の3種をU小判切手、最後の10種類を新小判切手と呼んだ。今回この最初の17種の旧小判切手を5フレームにまとめた。

小判切手  
旧小判切手 (1876-1879)

はじめに

これまでの手彫方式では生産性が悪く、急増する郵便物に対応した切手の製造方法、即ち迅速に大量に製造出来る印刷技術が要求されるようになった。またこの頃外国郵便の取扱いは開始され手彫の図柄では国名が分からず、国際性に欠けていた。そこで、当時紙幣製造職人として紙幣寮に招かれていた伊人エドワード・キヨソネの指導で新方式の凸版切手を製造するようになった。このシリーズを小判切手と称した。四角の枠内に楕円形のベルトを中心にし、その中央に菊の紋を配した図柄であった。更に大日本帝国と IMPERIAL JAPANESE と日英両国語が入り国際的となった。これらは30種つくられた。このうち最初の17種を旧小判切手 (1876-1879)、次の3種をU小判切手 (1880)、最後の10種を新小判切手 (1880-1886) と呼んでいる。今回この最初の17種の旧小判切手を5フレームにまとめた。  
(注) 熊手切、アステリスタ印、イニシヤム印等の分類は分厚いハンドブック (国書刊行館) に関する。

作品の展開

冒頭に専背、始発印、ついで集点印、みほん印手配してその後は発行額、紙額面より真鍮額面に配した。未使用印 (製造面) を左に、使用済 (使用面) を右に配し、目打は上部に始発印、表示印は下部に示した。額内表示はそれぞれの印手の後に、外便額は額内後後に配装した。

旧小判切手の種類

額面	刷色	発行日	額面	刷色	発行日	額面	刷色	発行日
5 圓	灰色	1876. 8. 17	10 圓	青灰色	1876. 8. 29	5 圓	黒灰色	1876. 11. 20
1 圓	黒色	1876. 8. 17	12 圓	緑色	1876. 8. 29	3 圓	黄褐色	1876. 6. 30
2 圓	ゴザープ	1876. 8. 17	15 圓	暗青色	1876. 8. 29	4 圓	赤色	1876. 8. 30
4 圓	緑色	1876. 8. 29	20 圓	黄褐色	1876. 8. 18	1 圓	赤色	1879. 10. 11
3 圓	赤色	1876. 8. 29	30 圓	赤褐色	1876. 8. 18	2 圓	黒色	1879. 10. 11
6 圓	緑色	1876. 8. 29	45 圓	紅色	1876. 8. 18			

目次

始発	F1	4 種	F29-36	30 種	F63
専背、始発印	F2-8	5 種	F27-39	44 種	F54
集点	F9	6 種	F40-43	8 種	F55-60
みほん	F10	10 種	F45-48	2 種	F61-62
5 圓	F11-14	12 種	F49	30 種	F63-65
1 圓 (黒)	F15-20	15 種	F50	1 種 (赤)	F66-71
2 圓 (ゴザープ)	F21-25	20 種	F51-52	2 種 (黒)	F72-80

